

データマネージャーを育成し問題解決活動の定着に成功

秋田エプソン株式会社（秋田県湯沢市）

製造業 資本金8,000万円 従業員数1002名

会社概要

1986年設立。セイコーエプソンの子会社。プリンターヘッド部品やウェアラブル機器・部品の製造、超精密部品・金型具冶工具の製造加工を行う。
"最強のものづくり集団を目指す"を合言葉に、最高水準のものづくりに取り組んでいる。



データを使いこなし、会社の仲間が同じ目線で改善に取り組む！
データを共通言語として部門横断的なコミュニケーションが可能になり
生産性向上を実現！

取組の背景は？

品質問題や物価高騰、深刻な人手不足など社会的課題が山積する中、製造業として長期的事業継続に向けた対策を模索。

勘・経験・度胸で進めていた製造業務において、データを扱うための統計知識を鍛え、DXの浸透と共に増えるデータソースを、生産性向上のために積極的に利用していく土壌を作ることを目的に人財育成に取り組んだ。

具体的な取組内容は？

①秋田県立大学の嶋崎真仁教授との産学連携により、**データ活用による品質管理等を実践できる人財（データマネージャー）育成プログラム**を設立。

生産管理工学からデータの見方・扱い方を学び、DXにも関連するデータ分析の知見を得る。

【プログラム内容】

- ・生産管理工学研修
- ・Python講習
- ・データを活用した課題解決実践プログラム

研修と並行し、受講者が各部署に方法を持ち帰り課題解決活動をスタート。嶋崎教授が事業終了までの間に月に1回のペースで事業所等を訪問し、活動報告を受けて技術指導を行った。

⇒**秋田エプソン社内にて、3年間で18名の「データマネージャー」を育成することに成功。**

②製造業他社との連携、水平展開を開始。

「データマネージャー育成プログラム」を秋田県の担当者が知ったことを契機に、2023年4月から同取組に関心を持った秋田県内の企業2社とコンソーシアムを組み、コンソーシアムによるデータマネージャー育成プログラムを開始した。

効果は？

- ・ データウェアハウスとデータ集計ツール(BIツール)の併用で、**1部門31人の工数削減に成功**した。
 - ・ **データを共通言語**として複数部門（製造部門、技術部門、間接部門）の社員が統計学のスキルを学び、**部門横断的なコミュニケーションが可能**になった。
 - ・ 本取組が進んだことで、3Dデータ活用など社内ソリューション開発、IT活用戦略の拡大に繋がった。
 - ・ 他社との連携により、同業他社と課題を共有し、悩みを相談できるコミュニティができた。また、他社の社員の考えや分析方法を参考にできるようになった。
- 現在は秋田県内の3社が参加している取組であるが、今後秋田県と連携し、更に拡大することを検討している。

＜プログラム参加企業における成果＞

- ◆(株)タニタハウジングウェア：在庫量過多から、在庫特徴量可視化と原因分析を開始。材料在庫量に解決の糸口を見つけることができた。
- ◆(株)品川合成製作所：商品の品質バラつきが大きい→ 影響するパラメータデータの収集と層別分析を開始。原料の特性/ 製造条件/ 検査ぶれなどバラつき因子を理解。分析の基礎となるピボットテーブルも習得。

活用した支援は？

2023年4月からのデータマネージャー育成コンソーシアムによる活動に当たっては、次の補助金を活用

- 企業連携による先進技術等活用促進事業（秋田県）

＜複数社によるプログラムの実施風景＞

